



JARA NEWS

February 2019, No. 132

from
Japan Automotive Recyclers Alliance
www.jara.co.jp

Published by JARA Corporation
Tokyo Head Office: 1 F. Yaesu KT Bldg. 1-1-8,
Yaesu, Chuo-ku, Tokyo JAPAN 103-0028
Phone: +81 3 3548 3010 / Fax: +81 3 3231 4690

変革を チャンス に 2019 年 年頭 の辞



JARA代表取締役社長
北島 宗尚

2018年は株式会社JARAIにとりまして合併5年という節目、並びに第1次5カ年計画の最終年という一年でした。

自動車リサイクル業界初の運営会社合併という試みからあつという間の5年間でしたが、予想以上の合併効果が内外ともに実現できた5年間だったと思います。これも単に旧SPN会員様、旧エコライン会員の皆様並びに関係者、とりわけ豊田通商の関係者皆様の多大なるご支援、ご協力により実現できたものと心から感謝している次第です。

その第1次5カ年計画の最終年であった昨年は、会員数拡大、システム流通金額拡大、システム改善など多くの目標を組織全体の協力により達成することができました。また、新たな会員企業をお迎えすることができ、ますます活気づいていることは非常に嬉しい限りです。さらに、18年の使用済み自動車引取台数の前年比増も後押しし、会員の使用済み車取扱台数も伸びてきており、19年はさらに入庫拡大に取り組んでいきます。

19年につきましては、複数の施策に取り組む考えです。まずは、豊田通商と連携した使用済み車両(ELV)処理体制の構築です。業務効率の改善として、リサイクル部品生産・販売における作業時間短縮など業務効率向上のため、「ATRS(アトラス)」と「SPL(スーパーライン)」の両システムはIoT対応とシステム改良を行います。リサイクル部品の流通面では、システム内流通部品の品質基準レベルの標準化を推進します。

技術力のさらなる向上として、損害保険会社の研修センターに協力いただき、技能講習の標準化を図ります。また、ビッグデータを活用した分析並びにマーケティング戦略や、大型など業務用車両についてのシステム対応を進めていきます。さらに、豊通リサイクルをはじめとした豊通グルー

プ関連会社と連携した取り組みを行います。

新年を迎え、新しい時代の幕開けですが、JARA会員企業とのさまざまな事業を展開していきたいと考えています。

(日刊自動車新聞1月10日)

経産省、MaaS普及加速へ

経済産業省は、IoT(モノのインターネット)や人工知能(AI)を活用することで提供が可能になる新たなモビリティサービス(MaaS=サービスとしてのモビリティ)の普及に向けた取り組みを強化する。地方自治体や民間事業者などによる取り組み事例などの情報を収集して関係者で共有するとともに、将来的なコラボレーションのきっかけにもなるイベントも開催する。MaaSと自動運転との融合についても、有識者らと検討していく。

2月を「スマートモビリティ推進月間」と位置付け、MaaSの普及に向けた各種イベントを展開する。15日には「モビリティサービス地域連携会議」を東京都内で開催。自治体や事業者、政府関係者らが現在の取り組みについてプレゼンテーションするほか、参加者との質疑応答などを通じて情報を交換する。

また、2月の毎週木曜日夕方には東京で、ライドシェアサービスの実現を目指す事業者や駐車場予約アプリの展開事業者、クラウド型タクシーコール事業を展開する事業者など、新事業の創出を目指すスタートアップ企業を集め、取り組み事例を紹介するイベント「ベンチャー・カフェ・トウキョウ・モビリティ・ピッチ」を開催する。

これらのイベントを通じて得た最新の動向や要望については、3月に開催する予定の「IoTやAIが可能とする新しいモビリティサービスに関する研

究会」での議論に展開し、2019年度以降のアクションプラン策定などの議論に反映する。同研究会はMaaSとレベル4以上の無人自動運転サービス車の融合について専門的に検討する作業部会を設置し、制度整備などについても議論する。

(日刊自動車新聞1月22日)

VWとフォード、正式に提携合意

【米デトロイト=水鳥友哉】米フォード・モーターと独フォルクスワーゲン(VW)は15日、グローバル規模の包括的提携に正式合意したと発表した。まずフォードのピックアップトラック、VWの都市型バンを相互供給し、2022年に販売を開始する。また、自動運転や電気自動車、モビリティサービス領域の共同開発でも提携の検討を開始した。

デトロイトで開催中の「北米国際自動車ショー(NAIAS)」に合わせて実施した電話会見で、フォードのジム・ハケットプレジデント兼CEOとVWのヘルベルト・ディースCEOが明らかにした。両社は18年6月に包括的提携に向けた覚書を交わしていた。

グローバルアライアンスは、ハケットCEOとディースCEOをトップに置く合同委員会で管理する。資本提携は含まない。両社は23年以降に業績へのシナジー効果が表れると試算する。両社が18年暦年に販売した商用車の台数は120万台を超え、アライアンスは商用車領域で「世界最大規模の業務提携」となる。自動運転技術など先進技術の提携は、今後数カ月間をかけて詰める方針。

(日刊自動車新聞1月17日)

CO2削減数値(SPLシステム)

リユースパーツ使用によるCO2削減効果参考値 平成30年12月

2,801t

※一般、中・大型含む車を修理する際、新品部品を使用して修理する場合に出るCO2排出量とリサイクル部品を使用して修理する場合のCO2排出量の差がCO2削減数値になります。

一般社団法人日本自動車リサイクル部品協議会と早稲田大学環境総合研究センターがLCA(ライフ・サイクル・アセスメント)の考え方に基づき共同開発した「グリーンポイントシステム」より参照。



現地時間14日にフォードブース前に並ぶフォードのハケットCEO(左)とVWのディースCEO(右)



学生たちの思いを形にした

日本自動車大学校、リサイクル部品活用カスタマイズ車をオートサロンに

日本自動車大学校(NATS、矢部明理事長・校長、千葉県成田市)は、11～13日に千葉県美浜区の幕張メッセで開催された「東京オートサロン2019」に、リサイクル部品を活用してカスタマイズした出展車両を展示した。

NATSは、毎年多くのカスタマイズカーを出展している。オートサロンの出展車両を対象に実施される「東京国際カスタムカーコンテスト」では、歴代の出展車両が受賞し、カスタマイズでは独自の発想力と高い技術力をあわせ持つ。学生がベース車両をカスタマイズする際に、リサイクル部品を使うケースが多く、多くのノウハウを蓄積している。

今年の展示車両10台のうち、最も多くのリサイクル部品を使用した車が「NATS FTO Ver.RCS」。ベース車両の三菱自動車「FTO」前輪駆動車(FF)の自動変速機(AT)車に、三菱自「ギャラン」の四輪駆動車(4WD)のV型6気筒エンジンとマニュアルミッション(MT)、駆動系を移植した。FTOとギャランでは、そのまま移植できない部品があり、必要な部位にリサイクル部品を利用した。

今回使用した主なリサイクル部品は、ドライブシャフトは三菱自「ランサーエボリューション4」、

ステアリングナックルは「ランサーエボリューション6」、ロアアームは「ランサーエボリューション6・5」の部品が活かされた。また、燃料タンクは「ランサーエボリューション10」用の競技用タンクのリサイクル部品をトランクに配置するなど、リサイクル部品が整備や板金以外の場面でも活用できる事例を形として表している。

完成した車両は、トレッドの拡大に伴うオーバーフェンダー化など内外装の仕上げも、学生たちの丁寧な作業が見て取れた。リーダー役のNATSカスタマイズ科3年の西島隆さんは「いつかはFTOの4WDを作りたいかった」と夢を形にしたことに笑顔を見せていた。

NATSのカスタマイズ科では、オートサロンに出展した車両の公認車検を取得し、テスト走行と卒業旅行を兼ねたテストランキャラバンを実施して、カスタマイズカーの安全性と走行性能を確認している。

(日刊自動車新聞1月17日)



今回で37回目の「オートサロン」には426社が出展

オートサロン2019開幕 クルマの楽しさを発見しよう

アジア「東京オートサロン2019」が11日、幕張メッセ(千葉県美浜区)で開幕した。クルマ好きの「カスタムカーの祭典」として1980年代にスタートした同イベントは、近年では若者や家族連れの来場者が増えるなど幅広く人気を獲得。自動車メーカー各社が、顧客との貴重な接点機会の場と捉え、発売間近の新型車やカスタマイズカー、コンセプトカーを披露する場として本格的に活用している。今回も各社が最新の車両を公開し、アフターマーケット各社とカスタマイズングのアイデアを競った。

今回で37回目となる東京オートサロンは、自動車メーカーやカスタムパーツメーカーなど426社が出展。ドレスアップしたカスタムカーやチューニングカー、コンセプトカーなど過去最大の906台

が会場を彩った。同乗試乗会やコレクタブルカーオークションなど関連イベントも増やして来場者を楽しませた。自動車メーカーの出展も定着し、6社がプレスブリーフィングを行った。

トヨタ自動車は、スポーツカーシリーズ「GR」の限定モデル「マークX GRMN」を発表。さらにダイハツ工業の軽オープンスポーツ「コペン」をベースにした「コペンGRスポーツコンセプト」も初披露した。トヨタの友山茂樹副社長は「コペンはもっと気軽にGRを楽しんでもらうため市販を目指し開発を進めている」と、トヨタグループが連携してGRシリーズの車種群を拡充していくとした。14日に開幕するデトロイトモーターショーで市販モデルを発表する新型「スープラ」のレース仕様も展示した。

日産自動車と子会社オーテックジャパンは、「エクストレイル」の“オーテック仕様”を28日に発売。昨年の東京オートサロンで参考出品したコンセプトカーが来場者から好評で「SUVニーズの中にも内装のデザインや質感、素材などで高級志向が高まっている」(オーテックジャパンのデザイン関係者)ことから市販化を急いだという。

マツダは、新世代商品の第1弾となる新型「マツダ3」(北米仕様車)を国内初披露した。青山裕大常務執行役員は「マツダプレミアムの実現に向けたマツダの新時代を切り拓く役割を担う」と説明。開発責任者の別府耕太氏とデザイナーの土田康剛氏によるトークセッションも行った。

三菱自動車は、大幅改良し近く発売する「デリカD:5」のクリーンディーゼル車を披露した。深澤潔執行役員は、「デリカはユニークなオールラウンドミニバンで国内販売の看板車種だ」と新型に



トヨタは「GRシリーズ」で開発中のダイハツ「コペン」ベースのモデルなどを展示

対する意気込みを語った。

ダイハツ工業は、軽オープンスポーツ車「コペン」をクーペスタイルに仕上げた「コペンクーペ」を展示した。炭素繊維強化プラスチック製のハードルーフを装着。開閉式のガラスハッチからは荷物出し入れも可能とした。「東京オートサロン2016」に出展し、来場者など多くのユーザーから好評だったことから200台限定で商品化することにした。11日から募集を開始、生産は4月以降を予定する。

スバルは、スバルテクニカインターナショナル(STI、平川良夫社長、東京都三鷹市)と共同開発した「フォレスターアドバンススポーツコンセプト」や「インプレッサSTIスポーツコンセプト」を披露した。平川社長は、両コンセプトモデルについて「来場者の反応が良ければ(コンプリートモデルとして)市販化を検討したい」と話す。

(日刊自動車新聞1月12日)



日産は「エクストレイル オーテック」(右)や「リーフ オーテックコンセプト」を出品



マツダは「マツダ3」の開発責任者とデザイナーらがトークセッション

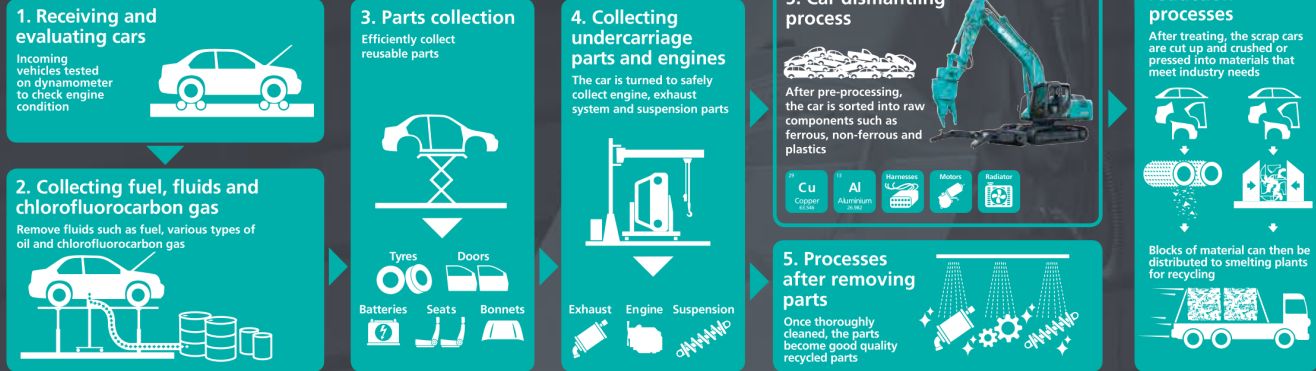


三菱自はデザインを大幅に変更した「デリカD:5」を公開



Dismantling process flow chart

How the Car Dismantling machine works



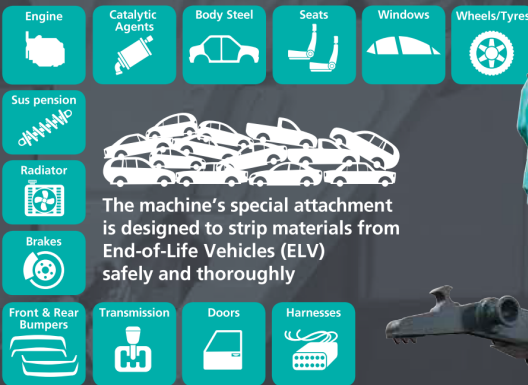
The Evolution of car dismantling industry by Kobelco

Four times* the vehicle dismantling capability compared with hand dismantling.

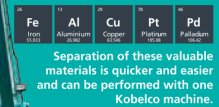
* In one day (Kobelco test figures)

15 vehicles > One operative working by hand.

60 vehicles > One operative in a Kobelco Car Dismantling machine.



Improved recovery rate of rare earth metals



コベルコ建機株式会社 www.kobelco-kenki.co.jp/	For Japan	成都神鋼工程机械(集团)有限公司 www.kobelco-jianji.com/	For China
(주)삼정건설기계 www.samjung-kenki.co.kr/	For Korea	KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY U.S.A. INC. www.kobelco-usa.com/	For North America
KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY AUSTRALIA PTY LTD www.kobelco.com.au/	For Australia	KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY EUROPE B.V. www.kobelco-europe.com/	For Europe
FAIR FRIEND ENTERPRISE CO.,LTD. www.ffg-tw.com/	For Taiwan		